

第 15 回 PERIO PBL カンファレンス

担 当：看護部（周術期管理センター、手術部）

- テーマ：①「高度肥満と肝機能障害のある食道癌患者への術前の取り組みについて」
②「腹臥位胸腔鏡下食道切除術における術中体位の改善と術中他動運動の取り組みについて」

2015 年 9 月 30 日（水）17：30～18：30

PBL カンファレンスは、PERIO が介入した症例の中から、各職種が経験した難渋ケースを提示し、全ての職種間で問題点を共有しながら、チームで解決策を検討する場です。当院では、2012 年 2 月より PBL カンファレンスを行っています。

第 15 回目の担当は、看護部門でした。テーマは、①「高度肥満と肝機能障害のある食道癌患者への術前の取り組みについて」②「腹臥位胸腔鏡下食道切除術における術中体位の改善と術中他動運動の取り組みについて」で、周術期管理センター看護師、手術部看護師の発表でした。

①「高度肥満と肝機能障害のある食道癌患者への術前の取り組みについて」の症例においては、高度肥満があり、手術予定日までに目標体重へ減量する取り組みとして、術前から多職種でどのように関わる必要性があったのか発表者から問題提示されました。管理栄養士からは、目標体重へ向けてやる気をだせるようなアプローチや、肥満患者が食事療法を継続できるようなサポートが必要であったこと、麻酔科医師からは、早期に多職種で目標体重の設定を行うことが必要であったとの意見があり、看護師からは、食道がんの手術日を決定する際は、目標体重まで体重を減量してから、手術日の決定を行う必要があったのではないかと意見がありました。今回のカンファレンスには、消化管外科医師の参加があり、外科医師の立場として、外来受診の段階から目標体重の設定を行う事や、目標体重に向けての患者本人の自覚を促す準備が不足していたのではないかと意見がありました。

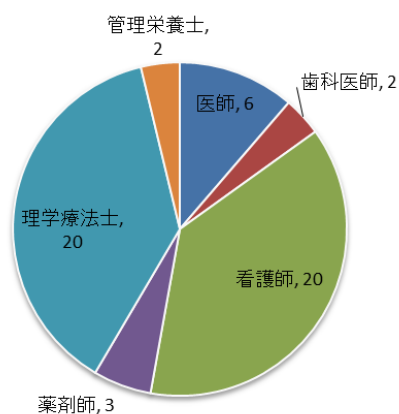
今回の症例では、多職種が連携し、早期に目標体重を設定するためのカンファレンスが必要であることを学びました。今後も、患者さんにとって安全に安心して手術に臨んでもらえるように関わっていききたいという看護師の言葉で締めくくられました。

②「腹臥位胸腔鏡下食道切除術における術中体位の改善と術中他動運動の取り組みについて」の症例においては、手術部看護師から、術中体位、術中他動運動の取り組みについて、よりよい体位の検討・実施が実現できたとの報告がありました。従来の術中体位から、術後の QOL を考慮した術中体位を理学療法士と検討を重ね、新体位が導入されました。また、術中の他動運動の実践風景が動画で紹介され、実際の手術中の他動運動

の方法を確認することができました。理学療法士からは、肩の屈曲制限の改善と呼吸機能の改善を行ったことで患者の苦痛が軽減されたことが述べられました。

多職種間でカンファレンスを行い、症例を検討することで、患者への術前からの介入の状況や問題点を振り返ることができ、よりよい医療・看護の提供へとつながっています。

参加者職種別内訳	
職種	人数
医師	6
歯科医師	2
看護師	10
薬剤師	3
理学療法士	20
管理栄養士	2
計	55



参加者職種別内訳
人数